

審査の結果の要旨

氏名 近藤 未佳子

本学位請求論文は、都市空間という物理的な「場」に対して、女性がどのように働き、その活動がどのようなものであったことを明らかにすることを目的としている。研究の対象とする地域は、東京都区部を中心とする地域であり、期間は、大正 7 年以降、昭和 16 年までの戦前期、ならびに戦後 1950 年代から 1970 年代までである。この種の問題については、個別的な事象に関する先行研究、いわば「点」が存在する。本研究は、これらの「点」をさらに深めるといふより、「都市環境改善」という観点から再評価し、つなぎ合わせることで、その全体像から女性の都市環境改善への取り組みの特性を明らかにすることに特徴がある。

なお、研究にあたっては、戦前期においては、『婦人公論』等の雑誌、戦後においては、各種の女性史や地域史で記録された資料に加えて、新聞ならびに請願や陳情などの記録という活字媒体を用いている。

本論文は、3 章からなる。第 1 章は、戦前の女性の都市環境への関わりを扱っている。当時の活動主体を明らかにした上で、その活動概要を、1) 市政への活動、2) 廃娯運動、3) 社会事業関連施設の建設の観点から、主として雑誌を中心に検証している。その結果、戦前の女性運動は、権利の拡張が主眼であったのに対して、女性の都市に対する視点や運動が下記のように凝縮された過程を例証している。すなわち、本来、フリーアクセスを前提としたはずの都市への女性の参加が、男性側からの要望としての「奉仕」や「愛市運動」という無償の労働の提供へと矮小化される過程である。つまり、都市計画・都市政策における女性の公共性からの排除の構造を明らかにした点で高く評価できる。

第 2 章では、戦後、1950 年代、60 年代、70 年代における女性の活動が検証されている。50 年代に関しては、1) PTA 活動においては、実質的な活動は女性に求められる一方で、役員が男性で占められるという様態から PTA という組織事態が女性というマイナリティの意見を埋没させるという危険性を指摘している。さらには、2) 戦後のベビーブームに伴う小学校増設運動、3) 環境浄化における女性運動や町会や婦人会の働きなどを明らかにし、都市環境改善に女性が果たした役割が、主として、子供を守る視点からの活動として集約できることを例証した。60 年代に関しては、オリンピック開催に伴う首都美化運動や新生活運動に着目し、高校増設運動や保育所増設運動、交通安全対策、公園緑地増設運動等の活動を通じて、日本の高度成長の背景で女性が都市環境の改善にどのように寄与したかが具体的に検証されている。その全体像を明らかにすることで、当時の都市改善運動が、子供への気遣いを基礎とした具体的な生活基盤の改善へと収斂可能であることを明らかにしている。以上、50 年代、60 年代の戦後復興期においては、男性が勤労を通じて戦後の経済復興に努める中で、「子供」という視点から、都市環境改善を推進する活動を担ったのが、女性であるという構造を明らかにした点は高く評価される。70 年代に関しては、高度経済成長が終わり、ゆとりの時代における女性の都市への関わりが検討される。本論文では、レジャー産業やサービス産業の普及における女性の反対運動、さらには、公害・環境対策問題に代表される環境への女性の取り組みを検証している。中でも、日照問題な

どの建築公害への取り組みにおける女性の果たした役割が示されている。その要因として、平日の日中に行われる工事を阻止できるのは、仕事を持たない主婦であるという指摘は、都市環境改善が、日本の家族制度や都市における居住・労働の場の布置と不可分であることを具体的に示す点で高く評価できる。その他、まちづくりに対する活動も進化し、要求型から提案型へ発展するが、その活動の中心を果たしたのも女性であったことが明らかにされている。

第3章では、70年代を対象とし、東京都区部における女性の活動を請願と陳情の定量的な分析を通じて比較検討している。それは、東京都区部を6つの地区に分け、それらを代表する区、計9区において行われている。その結果、都市環境に関連する請願や陳情と場外馬券売り場反対運動や学校（幼稚園）増設運動との関連を明らかにしている。また、運動代表者の性別と要望項目との関係についても検討を行っている。その結果、公園への要望は女性代表者の比率が高いのに比して、都市計画や鉄道への要望では、低いことを明らかにしている。

以上、本論文は、都市環境の改善への女性参加という捉えがたい問題について、個別事象の集積ではなく全体像として再構成するための基本となる枠組を用意し、その展開可能性を例証している。全体として論証されたことを要約するなら、日本の都市環境改善や形成に関して、「生活者の視点」、さらに言えば「身体的な視点」から環境を知覚し、理解し、行動したのが女性であったということである。

よって、本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格として認められる。